

綾瀬市立綾瀬小学校

研究テーマ：「自分で考え行動できる子の育成」

～学びと学びのつながりを意識した授業改善を通して～

## 1、実践の目的

新学習指導要領では、今までも言われてきた「生きる力」をさらに具体化し、各教科等の目標や学習内容を3つの柱に再整理し、「生きて働く知識・技能の習得」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」という3つの資質・能力の育成を掲げた。そしてその3つの力をつけるために必要なこととして①主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの授業改善と②各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現という2つが充実することが大切だとも述べられている。

年度末に行われたカリマネ会議では綾瀬小学校の児童の実態として、話を聞く力に課題があるという意見があった。また、自分で考えて行動する力も継続して育てていきたいという意見も多かった。人の話を聞くことができれば、人間関係も良くなり、人を思いやる心も育っていくのではないかと考えられる。今後も話す、聞くといった基礎・基本の定着を図りながら「思考力・判断力・表現力」を高めていく必要があることが再確認された。「思考力・判断力・表現力」をつけるためには①の主体的・対話的で深い学びを充実させる必要がある。新学習指導要領でも、「思考力・判断力・表現力等」は「深い学び」の中で身につくものだとされている。ここでいう「深い学び」とは、各教科等で身につけた資質・能力を「活用・発揮」

することで実現できるものだとされている。また、そういった活動を繰り返し行い課題を自分で解決していくことで育まれていく力だとも述べられている。つまり「深い学び」を達成させるためには学びの過程を充実させていく必要があり、行き当たりばったりの指導ではなく教師が見通しをもち、思いや願いをもって学習過程を計画し、児童が身につけた資質・能力を発揮・活用していく場をつくっていく必要があると言える。

## 2、実践の内容

生活科・総合的な学習の時間を中心に、カリキュラム・マネジメントと授業改善に取り組んだ。

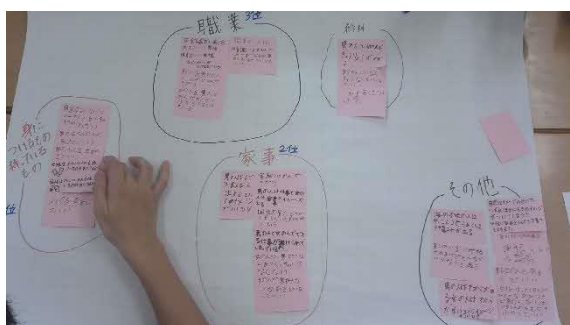
カリキュラム・マネジメントでは、各学年が目指す児童像を基に、単元構想表となる「学びのデザイン」を作成した。「学びのデザイン」には、他教科との関連や育てたい資質・能力が記載されており、年間を通したカリキュラム・マネジメントの土台となった。研究授業だけでなく、単元全体を見通して計画を立てることが、資質・能力のつながりをより意識することにつながった。

授業改善では、全クラスの授業公開を行った。思考ツールを用いた情報の整理・分析や振り返りを重視して、各学年が探究のプロセスを意識した授業に取り組んだ。また、体験から児童の思考を広げたり、課題を持たせたりすることを大切にして、各学年が地域教材や外部講師を積極的に活用した。

地域教材や外部講師は、次年度以降にも引き継ぐことができるように、一覧表を作成している。



児童同士が自分の考えを伝え合ったり、KJ法や思考ツールで考えを整理したりする姿が見られた。



### 3、実践の成果

「学びのデザイン」を作成する際に、学年で意見交換をしたり考えを共有したりすることで、カリキュラム・マネジメントへの理解が深まった。それにより、研究授業を行う単元だけではなく、他単元や他教科においてもカリキュラム・マネジメントを意識した学習を展開できるようになった。

今年度は「聴く力」を重点として授業づくりに取り組んだことで、協議での視点が明確になった。また、学年ごとの成長過程を確認することもできた。児童にも、友だちの考えを聞いてアドバイスをしたり、よりよい活動にしようと共に考えたりする姿が見られるようになった。

### 4、今後の展開

カリキュラム・マネジメントへの意識は高まっているので、今後もカリキュラム・マネジメントと授業改善の両輪を意識した研究を続けていきたい。

「学びのデザイン」は、資質・能力のつながりが分かるように作り直し、単元や教科間の関係がより分かるようにしたい。育てたい資質・能力を明確することで、より学びのつながりを意識できるようになると考える。

研究授業では、単元や授業の事前検討会を設ける等、より協議を深められるような工夫をして、研究を進めたい。また、思考ツールの使い方や話合いの仕方に系統性を持たせたい。各学年で身に付けさせたい技能を整理して、学校全体で児童を育てていく。

